

■開催概要

- シリーズ名称 : 2020 鈴鹿クラブマンレースFinal Round
- 主催 : 中日本自動車短期大学レーシングクラブ (ARCN)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 協力 : ARC、AASC、OCCK、KRHC、チーム淀
- 競技 : JAF公認・準国内格式 公認番号2020-2006
- 会場 : 鈴鹿サーキット 国際レーシングコースフルコース (5.807km)
- 開催レース : 総参加台数／111台
 フォーミュラEnjoy／21台
 FFチャレンジ／22台
 クラブマンスポーツ／31台
 FIT 1.5 Challenge Cup／20台
 RS・CS2クラス／17台
- 開催日 : 2020年11月28日(土)、29日(日)
- 天候・路面 : 晴／ドライ(両日)



今大会をもちまして、2020鈴鹿クラブマンレースのレース日程はすべて終了しました。
 2020年の開催スケジュール等につきましては、鈴鹿サーキット公式ホームページで随時ご案内いたします。
<https://apps.mobilityland.co.jp/msentry/download/1>



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2020/clubman/



両日とも天気は快晴。写真はレース1に向かうフォーミュラEnjoyクラス

2020年を締めくくる最後の戦い。 最後のRSクラスは全ドライバーが完走！

絶好のレース日和に恵まれた11月28日(土)、29(日)の両日。鈴鹿サーキット フルコースにて2020 鈴鹿クラブマンレースの最終戦が行われました。

28日(土)には、併催レースとして2020 N-ONE OWNER'S CUP Finalの予選、決勝ヒートを実施。50台がエントリーしたこともあり、サーキット全体がにぎやかな雰囲気になりました。また、同日はフォーミュラEnjoy など5つの公式予選が行われました。ポイントランキング上位陣がしっかりと結果を残し、どのクラスも大きな波乱なく公式予選を終えていました。

コロナ禍や台風による影響でRound2、Round3、Round6が中止になった2020年シーズン。今シーズン限りでRSクラスが終わりを迎えます。1982年にスタートしたRSクラスは、長い歴史のなかでRJクラスなど名称を変えながら実に30年以上も行われてきました。ボディカウル付きレーシングカーを駆り、多くのドライバーがレースを楽しんできました。最後のRSクラスには5台が参戦。優勝した久保宣夫選手は、自身が2019年にマークしたコースレコードを塗り替えるべく激走。すべてのドライバーが無事に完走を果たして、愛着のあるRSクラスに別れを告げました。

この日は最終戦ということで、各クラスでシリーズチャンピオンが決定。フォーミュラEnjoy、クラブマンスポーツ、FIT 1.5 Challenge Cupの3つは午前中にレース1、午後にレース2を行う2レース制を採用したことから、2レースで確実にポイントを積み上げたドライバーがシリーズチャンピオンの栄誉に輝きました。

さまざまなことがあった2020年。感染症対策を徹底しながらも最終戦が無事に実施され、いつもの鈴鹿クラブマンの風景がフルコースに帰ってきました。



最後のレースになったRSクラス。5台のマシンがラストランを飾った

■RS・CS2 Class 【レース1】

ポールポジションはRSクラスの久保宣夫、続いて見並秀文、阿部博行がグリッド上位となる。CS2クラスは6番グリッドのいむらせいじがクラストップの位置からレーススタート。久保はホールショットで後続との差を引き離す。CS2クラスは予選9番グリッドの松本吉章を先頭にして金久憲司、TOMISANと続く。久保は自身が持つコースレコードの更新を狙う走りを披露。しかし、CS2クラスのトップを走る松本がヘアピンでスピンを喫してしまい、代わって金久がクラストップになる。5周目にセーフティカーが導入されると、残り1周でセーフティカーランが解除。結局RSクラスは久保、CS2クラスは金久が勝利。RSクラスのシリーズチャンピオンは5位チェッカーの近田直人、CS2クラスは金久となった。



RSクラスの久保宣夫がポールポジション。ベストタイムは2分2秒722となり、自身が2019年に記録したコースレコード2分2秒460にわずかに及ばなかった



表彰式／RSクラスの優勝は久保宣夫。一度もトップを譲らない完勝だった。ポイントで大きくリードしていた近田直人が、5位でチェッカーを受けてチャンピオンに

■RS・CS2 Class【レース1】



CS2クラストップは6番グリッドのいむらせいじ。追い上げのレースとなり、2位表彰台を獲得した。



表彰式／CS2クラスで優勝したのは金久憲司。勝ってシリーズチャンピオンを決めた

■クラブマンスポーツClass【レース1】

元山泰成がポールポジションを獲得、続いてバイエルン松尾、大八木龍一郎のグリッド順になる。レースは2番グリッドのバイエルン松尾が好スタート。トップに躍り出ると、早くも元山と激しいバトルが繰り広げられる。すると元山は2周目で松尾をオーバーテイクしてトップへ。次第に大八木とバイエルン松尾の2番手争いが激しくなる。一時は逃げたかに見えた元山だが、再びバイエルン松尾、大八木が元山をとらえ三つ巴のバトルに。だが、レースは元山が逃げ切りポールtoウィンを決めた。



レース1は元山泰成、バイエルン松尾、大八木龍一郎の順でチェッカーを受けた



表彰式／副賞のダンロップ賞記念ボードを手に笑顔を見せる表彰台のドライバーたち

■フォーミュラEnjoy Class 【レース1】

ポールポジションは山根一人、シリーズランキング1位の大川文誠は2番グリッドでレースがスタート。山根がホールショットを奪うと大川、山崎一平が追う展開になる。2周目で大川がトップに立つと、山崎も2番手に浮上。山根は3番手にドロップしてしまう。4番手を争う亀蔵と芦田将吾のバトルも激しい。後半にかけて2番手以降がバトルすると、大川は独走状態となり逃げ切りに成功。レースは大川、辰巳秀一、山崎の順となった。



山根一人はポールポジションを獲得するも4位でチェッカーを受けた



優勝した大川文誠。激しいバトルを制した辰巳秀一が2位表彰台に立った

■FIT 1.5 Challenge Cup Class 【レース1】

40ポイントでランキング2位のHIROBONがポールポジションを獲得。42ポイントでランキング1位の寺西玲央は2番グリッドからのスタートだ。するとオープニングラップのスプーンカーブで1台が横転。早くもセーフティカーが導入される。残り4周でHIROBONを先頭にレースは再開。2番手に寺西、蜂須賀清明、西尾和早らが続くレース展開になる。ファイナルラップに入りHIROBONと寺西のトップ争い、蜂須賀と西尾の3番手争いは続くが、レースはそのままHIROBONが勝利した。



レース前の時点でランキング2位だったHIROBONがトップチェッカー。2ポイント差を逆転し、ポイントでもトップに立つ



セーフティカーランの時間が長くなってしまったレース1。波乱の展開となった

■FF CHALLENGE Class

44ポイントでランキングトップの松下裕一がポールポジション。2番グリッドに林陽介、5ポイント差で松下を追う毛利有佑は3番グリッドとなった。松下が順当にホールショットを決めてレースが進むと毛利は2番手、住直哉が3番手へ浮上する。毛利はトップの松下を追い上げるべく好タイムをマーク、じわじわと松下との差を詰めるが、それでも残り3周時点で1秒以上の差がある。松下と毛利は7周目でテールtoノーズになりファイナルラップへ。だが毛利の猛追及ばず、松下が逃げ切って優勝、チャンピオンを決めた。



スタートからトップをキープした松下が見事優勝し、4年ぶりとなる同クラスチャンピオンに輝いた



松下裕一の強さもさることながら、毛利有佑の粘りがレースを面白くした

■クラブマンスポーツClass【レース2】

レース1を制してランキングトップとなった元山泰成がポールポジション。バイエルン松尾、大八木龍一郎の順でグリッドに並ぶ。レースは元山がホールショットをゲット、元山をバイエルン松尾が追う。シリーズチャンピオンの可能性を残していた山谷直樹は序盤でコースアウトを喫し順位を下げる。トップの元山が好調で、バイエルン松尾との差を広げていく。やがて大八木はバイエルン松尾をパスして2番手に。元山とトップ争いをする大八木は焦りからかコースアウトで順位を下げ、3番手のバイエルン松尾が一気にトップへ。チャンピオンにわずかな希望を残し2番手を走る元山だったがファイナルラップで痛恨のスピン。バイエルン松尾が終盤に逆転を果たした。



レース2で勝利したバイエルン松尾のマシン。終盤で見事に逆転した



バイエルン松尾はレース1で2位、レース2で優勝。最後で強さを見せチャンピオンを獲得した

■フォーミュラEnjoy Class 【レース2】

ポールポジションは山根一人、2番グリッドに辰巳秀一、3番グリッドは大川文誠でレーススタート。山根が好スタートを決めて辰巳、大川とオーダー通りの展開になる。オープニングラップで辰巳がトップへ。すると3位だった大川が痛恨のコースアウトで順位を下げる。トップを走る辰巳と2番手の山根の差は大きい。3番手を争うのは芦田将吾、山崎一平といったドライバーだ。

結局、レースはランキング1位だった辰巳が完勝。レース1で2位、レース2で優勝と手堅くポイントを積み上げた。



レース2で優勝した辰巳秀一。終始、危なげない走りだった



最後のレースで見事に勝利した辰巳秀一

■FIT 1.5 Challenge Cup Class 【レース2】

レース2もポールポジションのHIROBONはレース1で勝利を収め、ランキングトップに立ってレースを迎えた。続いて寺西玲央、西尾和早がグリッド上位を形成。シリーズチャンピオンの行方もこの3人に絞られている。レースはHIROBONがホールショットを奪い好スタート。2番手は寺西、さらに西尾、蜂須賀清明、安井亮平が続き計5台が先頭集団を形成する。5番手を走る安井がやや遅れるが、上位4台は数珠つなぎのままで膠着状態になる。レースは前半から終盤にかけてトップのHIROBON、寺西のオーダーは変わらない。最後は余裕をもってHIROBONが勝利。この日2連勝でシリーズチャンピオンを決めた。



FIT 1.5 CHALLENGEには20台のマシンがエントリーした



レース2はレース1と打って変わって静かな展開になった中で、チャンピオンを決めたHIROBON。2017年からの4連覇を達成した。

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った
ドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

クラブマンスポーツ Classで優勝！

バイエルン松尾 選手(恵比寿★楽しく走ろう.com★アルファード1号)



VITALレース「OKAYAMAチャレンジカップレース」2019年チャンピオン、バイエルン松尾選手。2020年は鈴鹿に挑戦して見事にシリーズチャンピオンを獲得した

Q: 土曜日の予選から振り返っていただけますか。

「決して万全ではなかったですが、それでも自分なりに精一杯走れました」

Q: レース1は2位で表彰台に立ちました。

「元山泰成さんをはじめ、みんな速いですよ。でも、ベストを尽くせました。結果は2位でしたが納得できました」

Q: そしてレース2で優勝。シリーズチャンピオンも決めました。

「これはもう奇跡です！ 3番手をずっと走っていて、何とか最後にチャンスが巡ってこないかなと思っていました。去年、岡山でチャンピオンになって周りから『鈴鹿にも挑戦しよう』と声を掛けてもらい、鈴鹿に参戦したんです。それだけにプレッシャーもありましたし、さらにコロナ禍で大変な年でしたが最高の結果になりました」